

近世上野国における石造道祖神の成立と展開過程

～像形と碑形をもとに～

2022年2月1日

山口ゼミ/渡辺ゼミ4年 飯田晃

【発表概要】

道祖神は道陸神、サエノカミとも呼ばれ、古来より信仰され、江戸時代には石像が造られた。石造道祖神は本来、防災/防疫の神として祀られていたが、時代を経て旅人の神、縁結び、夫婦円満、子宝、五穀豊穡の神といった性格を習合し、様々な性格を持ち合わせている。石造道祖神は男女双体像と文字塔に大きく二分されるが、本研究では男女双体像を道祖神とする。双体道祖神は様々な像形が存在し、二神が合掌している像や、握手している像、酒器を持ち、祝言を表す像、接吻など性的表現を表す像などがある。こうした双体像が関東甲信越に分布しているが、近世上野国は中でも、道祖神の宝庫といえる。

石田(2001)は関東甲信越の道祖神の像形の時空間的変遷を明らかにした。群馬県においては、伊藤(1965)が赤城山麓付近の道祖神を赤城系、榛名山麓付近の道祖神を榛名系と分類した。続いて山田(1972)は、伊藤(1965)の分類を批判し、吾妻川系、平野部系、利根川本流系と分類した。

伊藤(1965)、山田(1972)らは地理的条件をもとに、道祖神の分類を試みたが、両者ともに感覚的な指摘となっており、定量的な分析は行われなかった。また、道祖神は本来、道端や、村境、辻などに祀られていたものであり、伊藤(1965)や山田(1972)のように道祖神を山や川といった地理的条件で分類するのが妥当とはいえない。そして、いまだ、群馬県内において石造道祖神がどこで初めて造立され、どのように各地に伝播していったのか、展開過程を明らかにしようと試みた先行研究は存在しない。以上を踏まえて、本研究では群馬県の道祖神の像形と碑形から組み合わせ(像形-碑形)を抽出し、造立年をもとに各組み合わせの空間分布の変遷を分析することで、近世上野国における石造道祖神の成立と展開過程を明らかにすることを目的とする。

結果として、主要な9つの組み合わせを抽出し、それぞれは上野国内において街道沿いに展開したということが明らかになった。また9つの組み合わせの展開の様子は、起源が倉渕村の組み合わせ、渋川や高山村、長野原といった上野国北部が起源の組み合わせ、高崎や前橋といった平野部が起源の組み合わせの3パターンに大別できた。

最後に、道祖神の展開の様子について、人流や物流といった社会経済史的側面からの考察を試みた。あくまでも可能性の域を出ないが、物資のやり取りや旅行者をはじめとした庶民の移動の活発化が、石造道祖神の展開に影響を及ぼした可能性の一つとして考えられるという結論に至った。上野国内において道祖神の展開に影響を与えた他の要因を明らかにするには、道祖神がどのような対象として祀られていたのかといった道祖神の性格などについて詳細に調査する必要があるため、今後の課題としたい。

【発表構成】

1. はじめに
2. 先行研究
3. 問題の所在と目的
4. 対象地域と研究対象
5. 分析方法
6. 分析結果
7. 考察

参考文献

- 石田哲弥 2001 『道祖神信仰史の研究』 名著出版 伊藤堅吉 1965 『性の石神』 山溪文庫 大塚民俗学会 1994 『日本民俗学事典縮刷版』 弘文堂 大間々町誌編さん室 1998 『大間々町誌 通史編 上巻』 大間々町誌刊行委員会 北原昭 1971 『諏訪の道祖神』 柳沢書苑 倉石忠彦 2005 『道祖神信仰の形成と展開』 大河書房 倉賀野雁会 1985 『文献による倉賀野町史 第2巻』 倉賀野雁会 倉渕村誌編さん委員会 2007 『新編倉渕村誌 第3巻 民俗編』 倉賀野村誌刊行委員会 群馬県吾妻教育委員会 1929 『群馬県吾妻郡誌』 誠文社 群馬県教育委員会 2008 『関東地方歴史の道<1>』 海路書院 群馬県教育委員会 2008 『関東地方歴史の道<2>』 海路書院 群馬県教育委員会 2008 『関東地方歴史の道<3>』 海路書院 群馬県史編さん委員会 1991 『群

馬県史-通史編5』群馬県 群馬県史編さん委員会 1991 『群馬県史-通史編6』群馬県 酒井幸男 1969 『安曇野の道祖神』柳沢書院 椎橋幸夫 2007 『双体道祖神調査資料集大成』名著出版 渋川市市史編さん委員会 1993 『渋川市史 第2巻 通史編』渋川市 高崎市史編さん委員会 2004 『新編高崎市史 通史編3 近世』高崎市 武田久吉 1971 『路傍の石仏』第一法規出版株式会社 長野県 1981 『長野県史近代史料編第7巻』信毎書籍印刷株式会社 長野原町教育委員会 1985 『長野原町の道祖神』長野原町教育委員会 沼田市史編さん委員会 2001 『沼田市史 通史編2 近世』沼田市 沼田市史編さん委員会 1998 『沼田市史 民俗編』沼田市 萩原進 1979 『群馬の道祖神』群馬県文化事業振興会 前橋市史編さん委員会 1975 『前橋市史 第3巻』前橋市 山田宗睦 1972 『道の神』淡交社

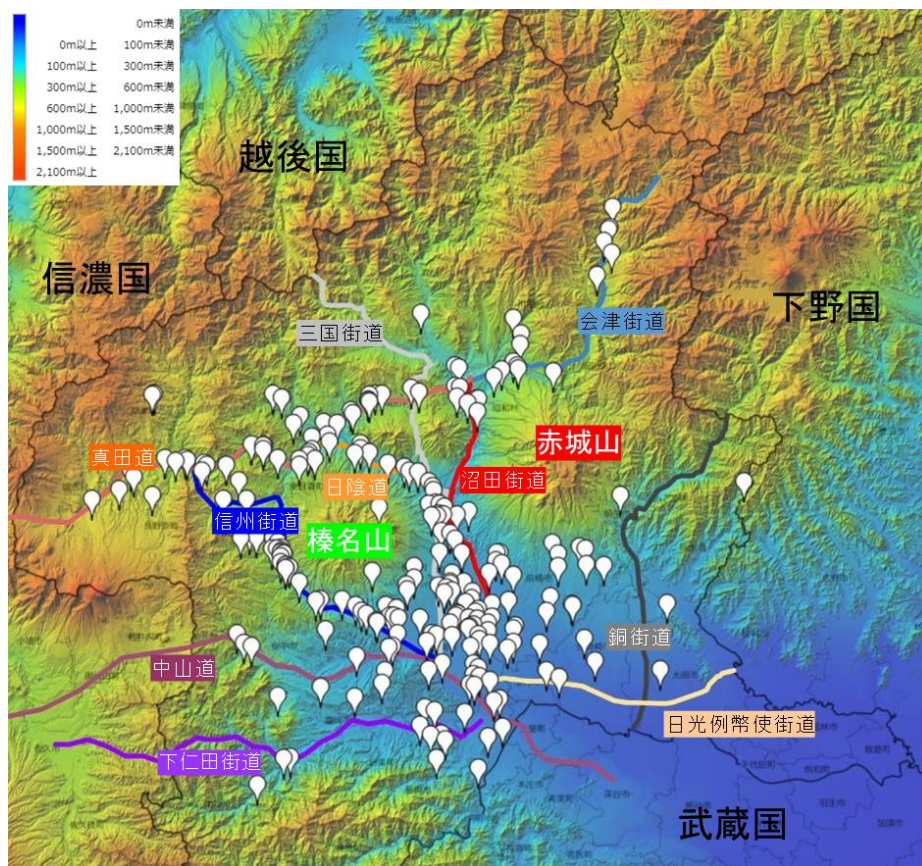


図1. 対象地域と研究対象

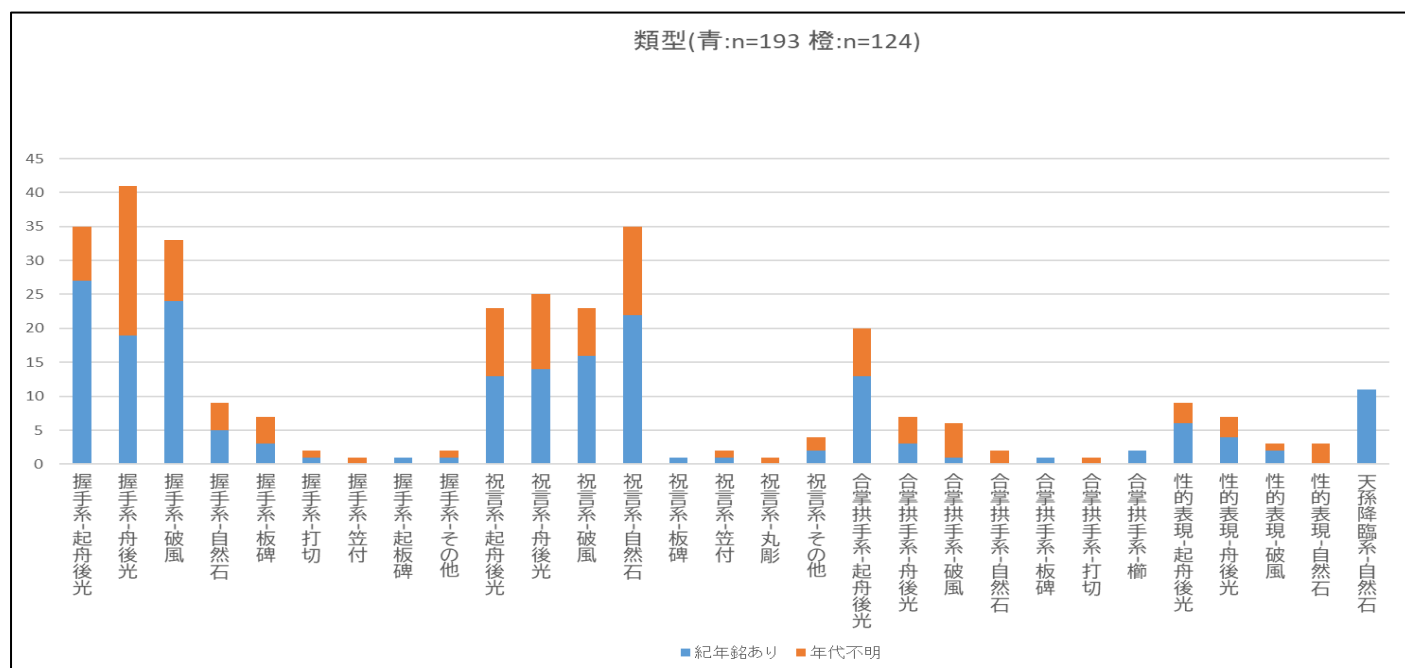


図2. 像形と碑形の組み合わせそれぞれの造立数



握手系-起舟後光



握手系-舟後光



握手系-破風



祝言系-起舟後光



祝言系-舟後光



祝言系-破風



祝言系-自然石



合掌拱手系-起舟後光



天孫降臨系-自然石

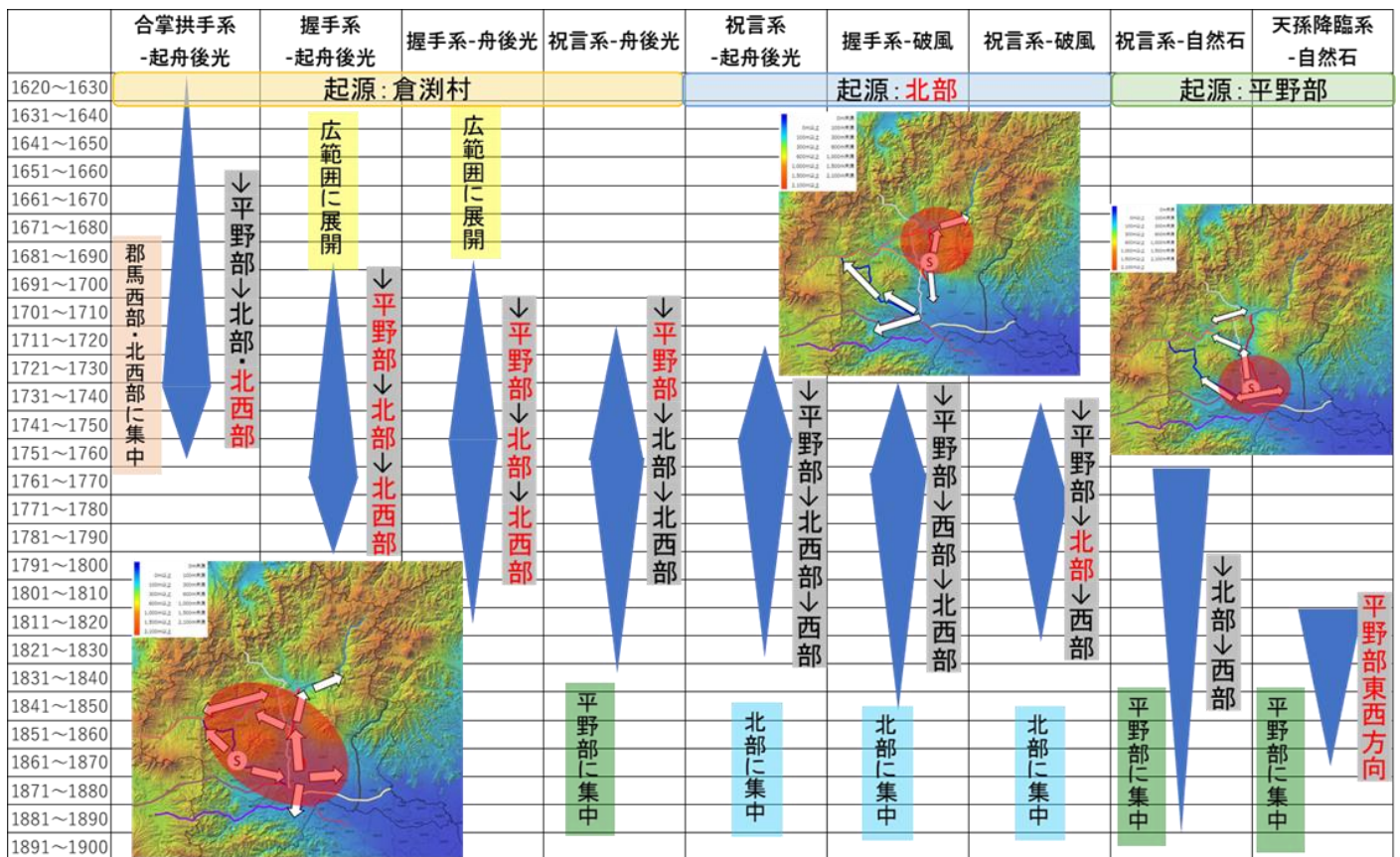


図3. 上野国内における各組み合わせの造立の盛衰と展開範囲の概観

